

教科等研究会（小学校道徳部会）

令和元年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

自己を見つめ、自己の生き方についての考え方を深めるための、
多様な指導方法と評価の工夫

2 研究経過

第1回			第2回		
6/13	29人	益城町立益城中央小学校	10/25	甲佐町立龍野小学校	藤河 如民教諭
第3回			第4回		
11/11	益城町立益城中学校	吉良 佳代教諭	2/6	甲佐町立白旗小学校	正木 瑞恵教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

小学校新学習指導要領における道徳科の目標から、児童一人一人が道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深め、道徳性を養っていけるような道徳科の指導を工夫することが重要だと捉えた。また、児童が道徳的価値についての理解を深め、よりよく生きようとする気持ちを高めることが、「分かる」「楽しい」道徳の授業につながると考えた。

◎「分かる」道徳の授業とは・・・

価値理解、人間理解、他者理解、自己理解を深める授業

＝道徳的価値を理解し、自分の生き方についての考えを深める授業

※①ねらいとする道徳的価値が大切であることが分かる（価値理解）

②大切ではあるが道徳的価値に根ざした行為は容易ではないことが分かる（人間理解）

③道徳的価値にかかわる見方・考え方は人によって様々であることが分かる（他者理解）

◎「楽しい」道徳の授業とは・・・

子どもが、「考えたい、聞きたい、話したい」と思える授業

＝道徳的価値を、自分とのかかわりで考える授業

本研究では、学習指導要領解説特別の教科 道徳編に示された指導方法の工夫の中からねらいや児童の実態、資料や学習過程に応じて、最も適切な指導方法を選択して指導案に明記し、授業の中で工夫し生かすようにした。

◇道徳の時間に生かす7つの指導方法の工夫

- ① 資料提示；教師による読み聞かせ（紙芝居、ペープサート等）、ビデオ映像等
- ② 発問；児童の意識の流れに沿った発問、考える必然性や切実感のある発問等
- ③ 話し合い；意図的指名、座席配置の工夫、ペアやグループ討議などの工夫等
- ④ 書く活動；吹き出しを付けたワークシートの工夫等
- ⑤ 表現活動；役割演技、動作化等
- ⑥ 板書；順接的な板書、構造的な板書、意見の違いを類型化した板書等
- ⑦ 説話；日常の話題や学級の出来事を生かした内容等

(2) 成果と課題

【成果】

- 事前研で資料分析及び発問の工夫等について協議を重ね、会員による先行授業を実施し、授業の流れや児童の反応について情報交換を行いながら指導案を練り上げることができた。
- 導入では、児童に日常生活を想起させたり、事前アンケートを用いたりすることで、価値の方向付けや課題意識を明確にもたせることができた。
- 板書（横書き）を工夫したことで、児童が登場人物に自分を重ねて考え、自分ごととして考えることができた。

- 一方の登場人物の立場から考えるのではなく、双方向から考えることで、児童に多面的な思考を促すことができた。
- 児童の実態に合った授業展開や発問、終末の工夫が効果的であった。参観者にとって多くの学びがあった。
- 第3回目が小中合同部会で、今年度は中学校の授業を参観させていただいた。参観者からは、「普段あまり見ることができない中学校の道徳の授業を見ることができ、大変勉強になった」という意見があった。
- 講話を通して、主体的・対話的で深い学びとするための授業の工夫や評価の在り方等について学ぶことができた。

【課題】

- 児童の思考を繋ぎ、焦点化するための教師の発問や補助発問の工夫について。対話による深い学びとなるための、教師の児童の発言の取り上げ方や意見を分類、比較するための板書の工夫等、今後も研究を深めていく必要がある。
- 来年度から教科書が変わるため、新しい資料における授業づくりを進めながら、さらに評価の在り方について研究を深めていきたい。

3 実践事例

(1) 授業の概要

主題名 人々のために尽くす（よりよい学校生活、集団生活の充実 C-16）

教材名 「小さな連絡船『ひまわり』」 出典「新しい道徳6」（東京書籍）

指導者 教諭 藤河 如民

本授業では、以下のような指導の工夫（展開の工夫）を行った。

- ・ 導入では、自分たちの学校での役割を想起させるとともに、登場人物の役割を紹介し、課題意識を明確に持てるよう工夫する。
- ・ 挿絵やキーワードを短冊で提示しながら、話の途中で言葉の注釈や解説を入れ、教材文に対する児童の理解を促す。
- ・ 児童の思考を深める手立てとして、横書きの板書にし、「自分たちの役割」と「登場人物（菅原さん）の役割」、「役割を果たす上で大切な心」を比べることができるようにする。
- ・ 構造的な板書で価値を類似化し、「自分の役割や責任を果たす心（価値）」に気付かせる。
- ・ 発問は精選し、道徳的価値に迫るような中心発問を工夫し、価値を高めるための補助発問等も用意しておく。
- ・ 展開を中心発問で終わるのではなく、「助けてもらった人はどう思ったでしょう。」という発問を入れることで、道徳的価値をより高めるようにする。
- ・ 終末では、下級生や先生方からの手紙を一人一通ずつ渡して読ませることで、集団での有用感を持たせ、これからの自分を見つめさせ、人の役に立ちたいという意欲を高める。

(2) 学習指導案

第6学年 道徳学習指導案

令和元年10月25日（金） 第5校時

場所 6年生教室

指導者 教諭 藤河 如民

1 主題名 人々のために尽くす（よりよい学校生活、集団生活の充実C-16）

資料名 「小さな連絡船『ひまわり』」

2 主題について

(1) ねらいとする価値について

本主題は、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編における、C「主として集団や社会との関わりに関すること」の「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めるこ

と」と関連が深い内容項目である。

人は社会的な存在であり、家族や学校をはじめとする様々な集団や社会に属して生活を営んでいる。それらにおける集団と個の関係は、集団の中で一人一人が尊重して生かされながら、主体的な参加と協力の下に集団生活が成り立ち、その質的な向上が図られるものでなければならない。

そこで、教師や学校の様々な人々との活動を通して、学級や学校全体に目を向けさせ、集団への所属感を高めるとともに、それらの集団に役立っている自分への実感とともに学校を愛する心を深められるようにすることが求められる。また、子どもたちが集団生活において果たすべき役割や責任を自覚し、他の人たちと協力し合いながら集団生活の向上を図ることが大切である。子どもたちが集団の中での自己有用感を高め、主体的に集団に関わろうとする心情と態度を育てたい。

(2) 児童について

本学年は、男子15名、女子9名、計24名である。本時の学習にあたって、関連する意識調査の結果は以下の通りである。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
道徳の学習に関する質問項目					
1	道徳の学習が好きですか。	3	11	5	5
2	道徳の学習は、自分の役に立つと思いますか。	6	16	0	2
3	自分の考えを書くことができますか。	3	15	4	3
価値に関する質問項目					
4	自分の仕事に責任を持つことは大切だと思いますか。	9	12	2	1
5	学校での様々な仕事を、責任を持ってしていると思いますか。	3	15	5	1
6	進んで人の役に立ちたいと感じますか。	6	9	7	2
7	学校生活であなたはだれかの役に立っていると感じますか。	0	5	14	5
8	自分のことが好きですか。	1	8	6	9

道徳の学習を苦手と感じている児童は、「話（教材文）が長くて理解できない」や「主人公の気持ちを考えるのが苦手」と理由を述べている児童が多かった。しかし、「人の気持ちを考えられるようになる」や「実際の場面でどうすればよいか分かる」と道徳の学習の有用感を感じている児童が多いことも分かった。価値に関する質問項目の結果から、自分の役割や責任を果たすことの大切さはわかっているながらもできていないと感じている児童が多く、集団生活において「自分が誰かの役に立っている」と感じる事が少ないことが分かった。

本学級の児童は、最上級生として、縦割り班活動やたて割り掃除の班長、登校班長、クラブ活動や委員会活動のクラブ長、委員長など、リーダーとして学校を動かす役割を担っている。下級生と一緒に遊んだり、困っているときに助けたりすることは好きな一方、積極的に人の役に立ちたいという児童は6割程度で、約4割の児童は主体的に集団へ参加しているとは言いがたい学級の実態が見て取れる。

また、「だれかの役に立っていると思いますか」という問いには、約8割の子どもたちが「そう思わない」と答えている。また、「自分のことが好きですか」という問いには、半数以上の児童が「そう思わない」と答えており、自己肯定感や集団の中での自己有用感が低く、そのことから「進んで人の役に立ちたい」という意欲を持ってない児童がいるのだと考える。

このような学級の実態を踏まえ、本時では、児童が自分の役割と責任を果たすことの大切さに気付くとともに、自己有用感を持ち、主体的に集団に参加しようとする心情を育てたいと考える。

3 本時の学習

- (1) 本時のねらい
身近な集団の中で、自分の役割と責任を主体的に果たそうとする心情を育てる。
- (2) 展開

過程 (分)	学習活動	主な発問・指示 (●) 予想される児童の反応 (○)	指導上の留意点	備考
導入 (5)	1. 学校での自分たちの役割について考える。	●みんなの学校での役割ってどんなものがあるかな。今日は役割を果たす心をみんなで考えていきましょう。 ○委員長 ○登校班長 ○縦割り班長	・学校での役割を想起させることで、ねらいとする価値への方向付けを図る。	
展開 (25)	2. 連絡船「ひまわり」と菅原進さんについて知る。 3. 資料「小さな連絡船『ひまわり』」を読んで、話し合う。	●菅原さんの役割にはこんなことがあります。 ●心に残った所や考えたい所はどこですか。 ○津波の中、船を避難させたところ。 ○お母さんと赤ちゃんを助けたところ。 ○島の人から声をかけられたところ。 ●菅原さんはなぜ地震の後、気仙沼港へ船を出したのだろう。 ○多くの人を助けたいから。 ○命を守りたいから。 ○自分がしなかったらみんなが困るから。 ○人の役に立ちたいから。 ●助けてもらった人はどう思ったでしょう。こんなにたくさんの気持ちがあるのはなぜかな。 ○ありがとう。 ○家族に会えた。 ○助かった。 ○これからも続けてほしい。 ○菅原さんが自分の役割を果たしたから。	・自分たちの役割と菅原さんの役割を比べられるよう、横書きの板書を工夫する。 ・一読一解で資料提示を行う。資料提示が終わった時には、板書の骨組みが完成しておくようにする。 ・感想や分からなかった所を出して確認することで、理解を促す。 ・菅原さんの胸にある使命感を自分の言葉で表現させる。 ・書く活動を位置づけ、自分の心をしっかり見つめさせる。 ・書くのが難しい児童には、声を掛けながら考えを引き出す。 ・多様な意見を引き出すために、全員発表で指名する。 ・特に共有したい意見については机間指導で伝えておく。 ・構造的な板書で価値を類型化し、「自分の役割や責任を果たす心」を支える心（価値）に気付かせる。 ・価値を高める発問をし、「自分の役割や責任を果たす心」の大切さを深める。	挿絵 シート
終末 (15)	4. 下級生や先生たちからの手紙を読む。 5. 自分自身のことを振り返り、感想を書く。	●みんなの中にも、菅原さんと同じ心があるよ。 ○これからも頑張るぞ。 ○もっと人のためにできることを考えたい。 ●これからの生活に生かしたいことは何ですか。今日の感想を書きましょう。	・自己有用感を高めるために、下級生や先生方からの手紙を読ませ、人の役に立ちたいという意欲を高める。 ・書く活動を取り入れ、自分自身をしっかり振り返らせる。 ・進んで役割を果たせなかった自分を発表した友達を共感的に受け止める。	手紙

【評価】身近な集団の中で自分の役割と責任を主体的に果たそうとする心情について、自分との関わりで考えている。(発言・ワークシート)